



人工島への国際観光船の寄港隻数目標を、前回計画32隻から22隻に大幅な下方修正をおこなながら、県港湾課は、「今回の変更計画は計画の本質を変えるものでない。…経済効果について改めて試算する必要はない」と市議会建設委員会に回答してきました。ところが県港湾課は、県議会にたいしては、人工島とは全く縁もゆかりもない沖縄と台湾間の定

期クルーズ船・スターアクエリアス号の調査結果に、鹿児島港に寄港した観光船の乗客数などを乗じて得た四億円という「試算」を提出していました。日本共産党の平山たかし議員の徹底した質疑で、その中身はとんでもない食わせ物で、「試算」の名に値しないものであることが判明しました。

1 「たまたま：沖縄・仮に：参考までに：」

こんなしろものを県議会に報告するとは

鹿児島市議会
建設委員会審査

見苦しいかぎり
県港湾課の
市議会建設委員会への回答

「県議会で経済効果のお質しがあつた際、鹿児島港での調査結果がなかつたので、たまたま調査資料のあつた沖縄の数値を使って仮に計算したものを、参考までに申しあげた」

2 すでに運行を停止した台湾・沖縄間の定期船

こんな船を「試算」の根拠にするとは！



県が、県議会に提出した「試算」で経済効果 4億円の根拠にした船はスターアクエリアス号 縄間の定期クルーズ船で、人工島に一時寄港でした。平山議員の質問でこの船は、台湾・沖縄に運行から撤退していることが判明しました。

3 港に着けば乗客は殆ど下船する沖縄・定期クルーズ船

その上陸率を一時寄港の人工島にあてはめ過大積算

平山議員の質問で、県港湾課が、人工島に寄港した観光船乗客の94・5%が上陸して観光や買い物に出かけると積算して経済効果を過大に「試算」していたことが明らかになりました。定期船では港に着けば殆ど下船するのは当たり前なのに、それを一時寄港の鹿児島人工島に当てはめて積算していたのです。また、鹿児島港での観光船の平成13年度実績では、船の乗客定員に対し実際の乗船率は83・2%、観光ツアーへの参加率は41・5%と低い数字であつたことがわかり、さらに以前発表した経済効果も過大だったことも明らかになりました。



知事の「早期回答 要請の根拠に関する県港湾課の回答、

県条例無視と平山たかし議員に追及され、撤回

人工島変更計画にたいする市の回答期限について港湾管理者の県知事は「4ヶ月以内（9月20日が期限）」としていましたが、突如、「7月18日まで回答を」と文書で要請してきました。市議会から根拠を問われた県港湾課は「人工島の工事は県政浮揚に不可欠の事業であるので工事請負については県議会にはかつてきた。人工島の請負契約は変更計画と関連があり、県議会にかけなければならないから逆算すると7月18日回答が期限」という旨の回答をしてみました。

人工島 経済効果 「試算」問題

知事は「18日まで結論を」と要請
市議会は、人工島審査を続行

平山たかし議員は「5億円以内の工事であっても、人工島関係はすべて県議会にかけるといふことか。それは、県条例にもとづかない行為ではないか」と質し追及しました。（県条例では工事請負契約を県議会にかけるとは、工事額が5億円以上の場合となっています）
この質疑のあと県港湾課は、「早期回答の根拠」なる答弁を全面的に撤回しました。

人工島計画変更議案、
継続審査の市議会を
傍聴しましょう。
お問い合わせは
☎ 216-1440
日本共産党鹿児島市議団
平山たかし
山下ひとみ